

長崎県 農泊体験 報告書

| |
|---|
| 国籍 |
| マレーシア |
| 体験日時・場所 |
| 2023年9月30日～10月1日 長崎県南島原市 |
| 体験内容 |
| <p>【1日目】</p> <p>午前10時頃、諫早駅ホームから島原鉄道を利用して村に向かった。途中、沢山の水田を通り過ぎたが、10月頃の稲刈り時期に近かったため、その光景はとても美しく、緑に覆われていた。列車を降りた後、そば屋で昼食をとり、バスで村に向かうと、村人たちが温かく迎えてくれた。私たち4人のグループは男女別に分けられ、男子は「農民」、私たちは「漁師」となった。中野さんの後について住宅に向かった私たちは、村の自然の美しさに畏敬の念を抱いた。</p> <p>図1は、南島原市の民家の一角にある港。この住人は農家も漁師もいる。ここから船を使えば熊本県まで30分で行けると教えられた。</p> <p>ホームステイ先に到着して荷物を置いた後、私たちは中野さんのボートで約2時間、海の真ん中まで釣りに行った。その間、正しい釣り方や魚がエサを食べたかどうかの見分け方などを教えてもらった。二人とも漁の船に乗るのは初めてで、ましてや海の真ん中で漁をするのも初めてだったからだ。風のせいで、出てくる魚の量が中野さんが予想していたほど多くなかったため、忍耐力が試された。また、二人とも魚が釣れず、潮の流れでリールがリーフやボートをとらえたことも何度もあった。しかし、そのおかげで、魚がかかったとき、リーフにかかったとき、ボートに引っかかったときと、リールの「重さ」の感じ方が違うので、二人ともリールの「重さ」を見分けるようになった。時間までに一人10匹釣るという目標を立てたが、二人とも10匹のカサゴを釣ることができた！カサゴに似た魚は他にもいた。中野さんによると、日本</p> |



図1 南島原の港



図2 シャヒラが釣った
カサゴ

では季節によって釣れる魚が違うそうで、夏から秋への季節の変わり目には、カサゴがよく釣れるそうだ。

港に戻ると、中野さんが投網で獲れた鯛を取り出してくれた。カサゴが味噌汁や刺身の「おかず」になるのに対し、鯛は主菜としてカラアゲにする。



図3 投網で釣った鯛

続いて中野さんが、網すくいを使って釣れた魚を取り出すように指示した。死んでいる魚もいたが、まだ生きている魚もいて、容器から飛び出さないか心配で、すくい取るのに一苦労だった。私たちが捕った魚以外にも、私たちが来る前に中野さんが捕獲したフグもいた。中野さんは、フグには毒があるから危険だが、調理して適切に扱えば安全に食べることができることを教えてくれた。フグは威嚇されると体を膨らませるらしいが、今回はフグが疲れていたのか、思ったより体を膨らませなかった。

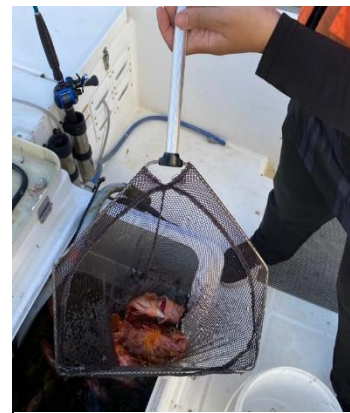


図4 釣りをした魚

この写真は、中野さん夫妻と二人で合計24匹釣ることができたときのものだ。中野さんの家では、ホームステイに来た人たちの写真を撮るのが恒例になっている。撮られた写真はアルバムに保存される。中野さんのアルバムのコレクションを拝見したが、ホームステイに来る人の多さに驚いた。コロナ以前は、年間数百人が「村の生活」を体験するためにホームステイに来ていたらしい。この写真を撮った後、私たちは近くの温泉で体を洗い、中野さんの奥さんが夕食を作ってくれた。



図5 釣りをした後の集合写真

これが1泊2日で泊まった部屋だ。それぞれ布団とベッドカバーが用意された。部屋は本当に広くて居心地がよかった。まるで家にいるような、家族の一員になったような気分だった。部屋はトイレの隣にあり、その近くには大きな鏡があって、顔を洗ったり歯を磨いたりするのに利用できた。また、温泉に持っていくためのタオルも用意されていた。



図6 私達が泊まった部屋

二人とも日本で温泉に入ったことがなかったので、家族専用の温泉に入る機会を与えてもらった。私たちは二人ともイスラム教徒で、宗教の関係で公共の温泉に慣れていないため、公共の温泉ではない温泉を用意してもらえないかとお願ひした。中野さんに車で温泉まで送ってもらい、午後7時まで約1時間、体を清めてくつろいだ。温泉には屋内と屋外の2つの浴槽があった。二人とも壁に書いてあった温泉の効能を読んで、筋肉痛を和らげたり、血液の循環を良くしたり、血圧を下げたりと、温泉の効能に驚いた。村人たちが、特に冬の間、長い一日の仕事の後によくここに来るのも不思議ではない。



図7 家族温泉

温泉から戻った私たちは、中野さんの奥さんの夕食の支度を手伝った。午後釣った魚を夕食と朝食の両方に調理した。様々な海鮮料理が振る舞われた。一泊の短い滞在だったので、中野さんの奥さんとゆっくり夕食を作る時間はなかった。図8は、シャヒラが鯛を揚げるのを手伝っているところ。私たちは夕食の準備をし、中野さんや奥さんと彼らの経験や村での生活についてたくさん話をした。食事の後、私たちは部屋に戻って休み、朝が来るまでぐっすり眠った。



図8 鯛のカラアゲ

【2日目】

図9は朝食。鯛のお吸い物、鯖の塩焼き、魚の天ぷら、茶碗蒸し、カニカマのサラダ、オムレツなどである。どの料理も肉を一切使わず、イスラム教徒である私たちが食べられるようにアルコールも一切使っていない。食事の後、私たちは中野さんと一緒に村や港を散歩し

た。中野さんは小さなイチゴ農園を案内してくれ、漁師だった頃の経験や現在の状況を話してくれた。歩いていると、中野さんの知り合いの漁師さんや、通学途中の子供たちにも出会った。朝の風は穏やかで、都会から離れ、村の新鮮な朝の空気の匂いを嗅ぐと、とてもすがすがしい気分になった。しかし、私たち二人は朝の散歩をしながら、中野さんとの別れが近いことを知り、少し悲しい気持ちになった。



図9 作ってくれた朝ご飯

荷物をまとめた後、他のグループと一緒に最後の写真を撮った。図10は、マレーシアの国旗を持っているところ。私たちは別れを告げ、握手とハグをし、島原の基督教の歴史を学ぶという次の予定に移った。有馬キリシタン遺産記念館で日本の基督教の歴史について説明された。原城の歴史について館内で教えてもらった後、城跡そのものを自転車を使って見学した。



図10 別れる前の写真

ご覧の写真は、ツアーガイドから原城の歴史や年表を聞いた後、全員で原城跡までサイクリングしたものだ。電動自転車が用意され、指定された場所まで10分ほど集団でサイクリングした。サイクリング中、城跡から海を眺めることができたのは、原城が戦場として、また敵の軍隊を撃退するための理想的な場所として築かれたからである。



図11 自転車で移動する

到着後、城跡の歴史や天草四郎の伝記などの説明を聞いた。アルミで作られた像や、なぜアルミで作られたのかの理由も知ることができた。当時の人々の反乱の様子や、現在の城跡のような場所を選んだのは、敵に対する攻撃や反撃の戦略的な場所だからだという話も興味深かった。私たちが立っていた場所が戦争の場所であり、考古学者に発見されるまで何千もの戦死者が骨だけを残して横たわっていた場所であったことを思うと感慨深い。ツアーガイドから話を聞くのは豊富な知識と経験を得る機会であり、ツアーガイドもまた、そこでの歴史についての説明を詳細を詰め込みながらもわかりやすくしてくれた。



図 12 原城の歴史を聞いている

その後、イエスの母マリア像が木彫りされている場所に行った。高さ約 10 メートル、重さ数トン。パーツごとに組み立てられて、この場所に運ばれて披露された。私たちは、そこに常駐していたツアーガイドの説明を聞き、木彫りに触れたり、至近距離から見たりすることもできた。とても美しく丁寧に彫られていて、制作者のひたむきさが伝わってきた。私たちはイスラム教徒であり、キリスト教とは異なる宗教を信仰しているが、それでも他の宗教を尊重しており、ここの村の人々から他の文化や宗教について学ぶことができたのは興味深かった。それだけでなく、ここからは南島原市を一望することもできた。その後、私たちは出発し、長崎市の平和公園にある大きな平和祈念像に似た、小さな平和祈念像がある場所に連れて行かれたが、時間がなかったため、外に出て見る機会はなかった。



図 13 木彫マリア像の写真

すべての教育旅行が終わった後、私たちはイルカを見に行き、最後にバスで長崎市内に戻った。これで 1 泊 2 日の南島原の旅は終わった。